

【概要版】枚方市駅周辺再整備基本計画（素案）【2018.12月時点】

計画策定の目的

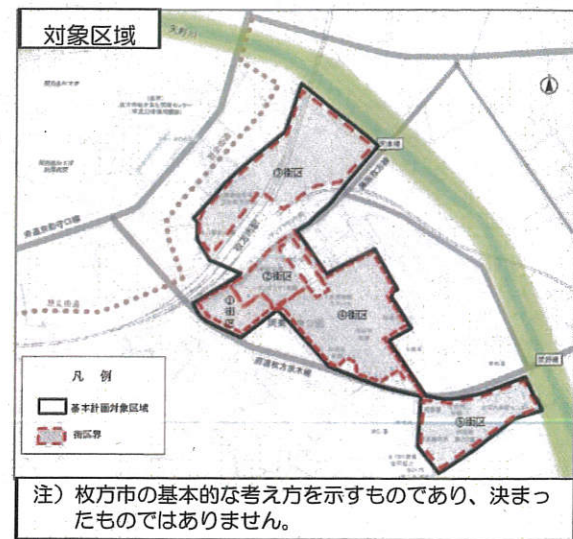
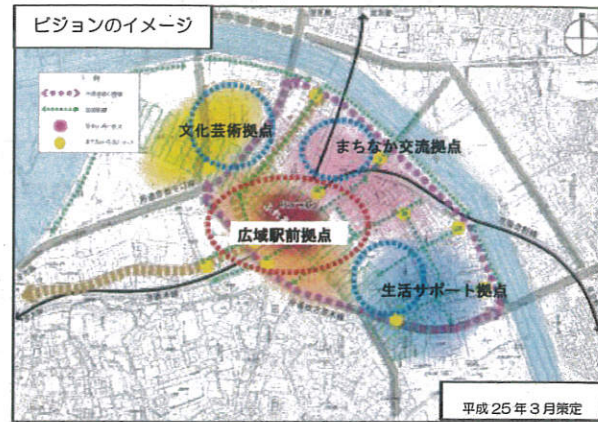
平成25年3月に策定した枚方市駅周辺再整備ビジョンに基づき、本市の中心市街地として魅力にあふれ賑わいのあるまちを具体的に構築するため、重点的に進める区域を設定し、まちづくりの方向性や土地利用計画と施設配置計画実現化に向けた方策等を示した枚方市駅周辺再整備基本計画を策定します。

対象区域

基本計画の対象区域は、再整備ビジョンで示す広域駅前拠点、まちなか交流拠点、生活サポート拠点を形成するため、右の区域（約13ha）とします。

地区の特徴

- 行政・商業・業務・医療・文化交流機能が集積する市の広域中心拠点
大阪、京都への良好なアクセスを有する特急停車駅、市内・周辺都市を結ぶバス発着拠点
京街道枚方宿の歴史資源、淀川、天野川の自然環境、岡東中央公園を活かした賑わい・交流拠点



現状の課題整理

- 社会環境の変化や多様化する市民ニーズに対応した機能の充実
駅利用者や駅前などの中心部の人々の行動範囲を広げ、ゆとりや賑わいを創出
市駅前広場における交通機能の強化と安全対策
広域中心拠点として必要な都市機能の充実、大規模災害に備えた防災・減災力の向上
公共施設を含めた老朽化建築物の更新（耐震化の促進）
地域資源である淀川や歴史街道などの活用や大学との連携による魅力づくり・情報発信

【めざすまちの将来像】

「再発進 ひらかた 人が主役のゆとりと賑わいのまち」

サブテーマ:全ての世代が様々なライフスタイルを実現し、交流できるまち

(キーワード)

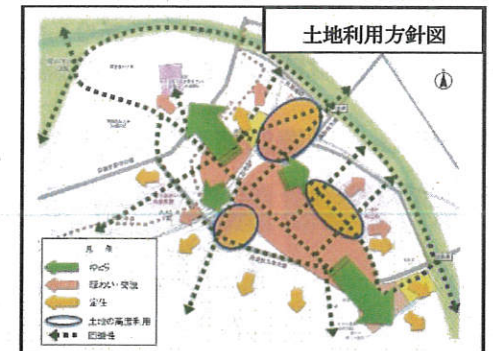
- 多様な人々が「職・学・住・楽」近接のライフスタイルを実現、子育て世代を中心とした定住促進
快適な住環境を整え、安全性や利便性の向上とゆとりの創出と回遊性の向上
景観に配慮した街並みや自然環境とのネットワークを形成し誰もが健康で元気に暮らせるまち
歴史、文化等の地域資源を活かした賑わいの創出や積極的な情報発信による交流促進
多様な関係者が連携し主体的となってまちづくり活動を担うエリアマネジメントの推進
安全・安心で快適に生活できる環境、大規模災害にも強い都市環境の形成

導入する都市機能の方向性

Table with 2 columns: 分野 (Sector) and 基本的な考え方(上段)・想定する都市機能(下段) (Basic Concept/Target Urban Functions). Rows include 賑わい・交流, 交通基盤, 市民生活, 都市居住, 産業・文化芸術, みどり・環境・景観, 防災・減災.

土地利用の方向性

- 広域拠点に相応しい土地の高度利用を図るとともに、岡東中央公園をはじめ、公有地を活用したゆとり空間の創出など、メリハリのある土地利用
地域資源や新たな都市機能などを有機的につなぎ、定住促進や回遊性、賑わい創出が図れる土地利用
市庁舎をはじめとした老朽化施設は、更新を図るとともに、必要な集約を行うなど、効率的な土地利用



土地利用計画と施設配置計画



【概要版】枚方市駅周辺再整備基本計画（素案）【2018.12月時点】

事業手法と総概算事業費

●考え方

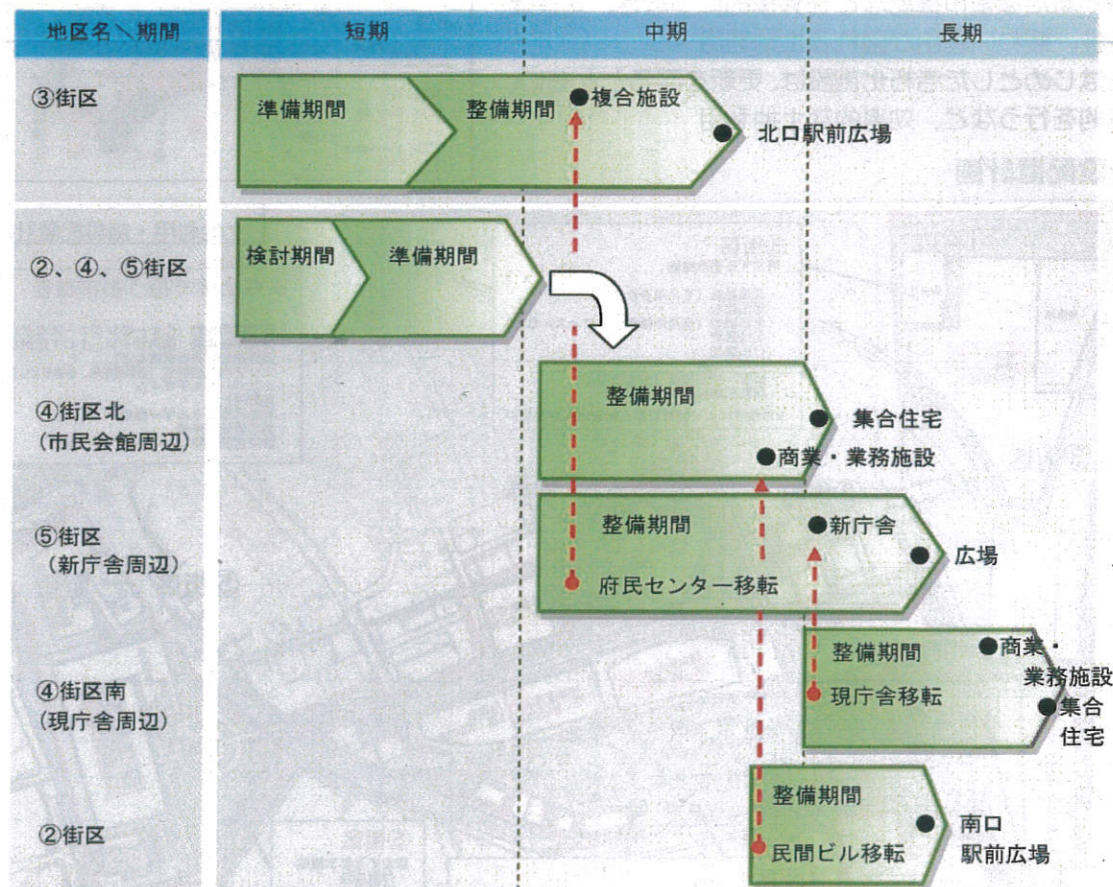
- 市街地再開発事業と駅前広場・道路整備事業などをあわせて実施。
- まちづくりの実現に向けて都市施設、土地利用など必要に応じて都市計画を検討。
- 民間活力の導入を図るため都市再生緊急整備地域の指定を目指す。
- ①～⑤街区を3つに分け、連鎖型まちづくりに取り組む。

事業手法および総概算事業費

街区	事業手法	事業費
①街区	市街地再開発事業（民間共同建替え）	—
③街区	駅前広場の整備とあわせて市街地再開発事業	395億円
②、④、⑤街区	枚方市駅（南口）駅前広場や道路などの都市施設の整備とあわせて市街地再開発事業	1,001億円
②街区		102億円
④街区		646億円
⑤街区		253億円
合計		1,396億円

※金額は現時点での目安であり、今後、事業手法や社会経済状況により変動します。
 ※①街区は民間が主体となった施設更新を見込み、事業対象区域に含んでいません。

目標スケジュール(連鎖型まちづくりの進め方)



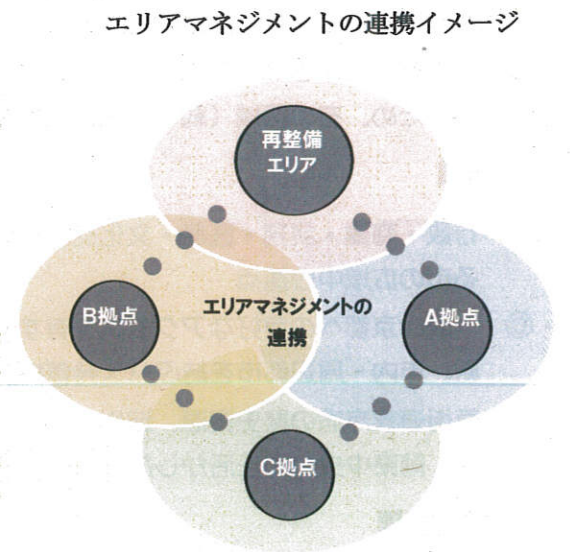
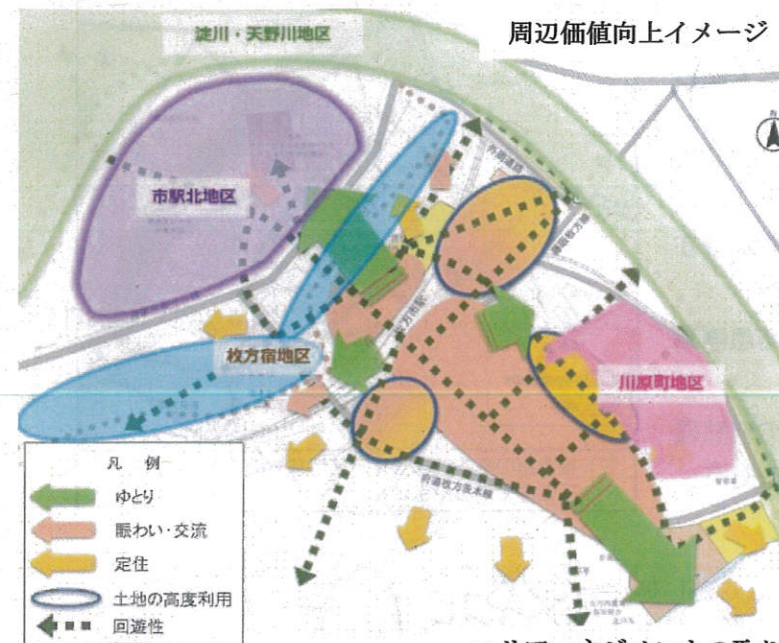
※本市が想定するスケジュールであり、事業実施にあたっては本市の財政状況や地権者の合意形成などにより、事業スケジュールを確定していくことになります。

持続的に魅力が高まるまちづくりに向けて

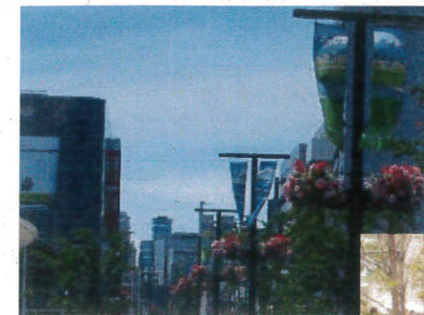
市駅周辺再整備の実施により得られる賑わい・交流、定住促進などの効果を一時的なものとするのではなく、全域の魅力向上につなげるため、継続して効果を高めていく取り組みが必要と考えます。

そのため、市民・事業者・地権者などが「まちをともに育て価値を高める」という観点から、施設の利活用や適切な維持管理の中心的な役割を担い、多くの方が主体的に関わり、まちづくりに取り組む「エリアマネジメント」の仕組みが必要となります。

- 多くの関係者が関わる「エリアマネジメント」の仕組みづくり
- 周辺地域と有機的に地域資源をつなぎ、連携を進め、市域全域に相乗効果を高める取り組み
- 本市とエリア内関係者が連携し、地区のブランド力強化により持続的な価値向上を図る取り組み



エリアマネジメントの取り組みイメージ



エリアマネジメント 広告事業



統一感のある サイン・案内板



※枚方市駅周辺再整備基本計画については、今後、さらなる民間ノウハウや投資を促す環境づくりとあわせ、資金計画と財源確保策を明らかにした上で、市民説明やパブリックコメント実施し、平成31年度の策定を予定しています。